

初任総合教育(第3期)

～CHALLENGE～

新任の消防職員を対象とした、初任総合教育（第3期）も5月が終わり、早くも2カ月が経過しました。

授業内容は、基礎知識を学ぶための座学中心から実技訓練が多くなり、放水訓練や空気呼吸器を背負っての活動訓練を行い、いよいよ消防士らしい本格的な訓練になってきました。また、救急の授業では、胸骨圧迫の実技を行い、心肺停止の要救助者を救うことの大変さを痛感しました。

様々な訓練を通じて、災害現場で生かせる確かな技術として定着できるように、それぞれが目標を持って訓練に励んでいます。

これから夏にかけて厳しい訓練が続きますが1人1人が現状に甘えることなく、気を抜かず毎日大切に過ごし、全員で協力しながら消防士としてふさわしくなっていけるよう努力していきます。

5月1日には、ホース延長要領、注水要領、ポンプ車のメーター（連成計）を確認しながらの送水圧力調整を踏まえながら、実践的な放水訓練を行いました。



5月2日には学校周囲の河川清掃を行い、消防水利保全の大変さを学びました。

また、地域貢献活動の一環であるので、より一層地域から信頼を得られるように頑張りました。



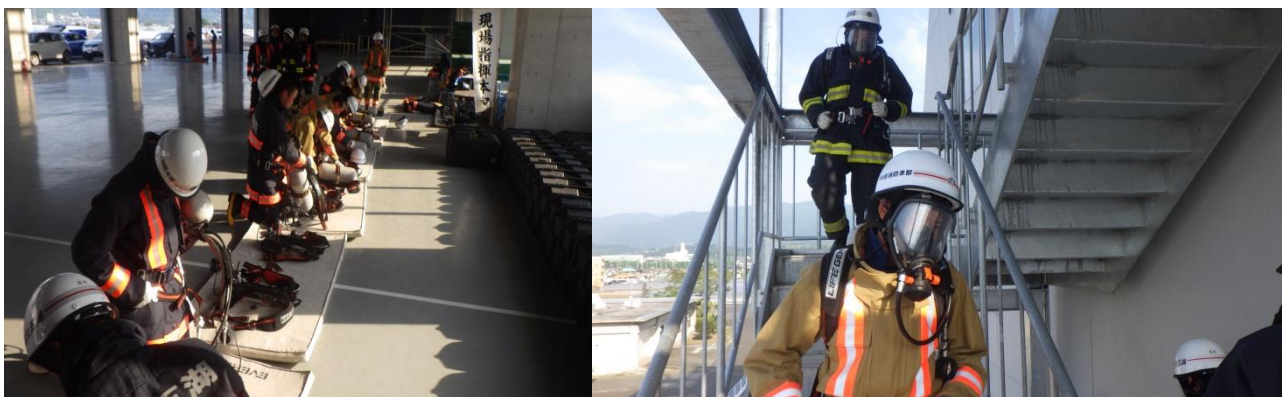
5月からは通常点検が始まりました。

毎朝、担当教官から点検を受け、服装、姿勢を正し、礼式を通じて、礼節を明らかにして、規律を正し、隊員の品位の向上を図るもので、さらに、第3期生みんなで和衷協同して、強固な団結力を身に付けるために行っています。

※和衷協同：心を同じくして共に力を合わせる



5月29日には火災防ぎょの授業で空気呼吸器を背負い、初めて面体を装着して、ボンベ内の空気が尽きるまで総合訓練棟（高層訓練棟）の最上階までを往復する訓練を行いました。酸素ボンベの残量を意識した活動や自分の活動限界を体験することができました。



5月30日には救急の授業で人体の構造、胸骨圧迫をする意味、効果を学び、そして、実際に実技訓練として30分間、訓練人形を使って心肺蘇生法を行いました。現場では1時間以上行わなければならない場合もあると知り、正しい姿勢で胸骨圧迫をすることの大変さを痛感しました。

